［教育目標］
健自貴
康主任

小原田中だより

令和６年９月号
郡山市立小原田中学校
校長　関根宏房

ホームページＵＲＬ
https://koriyama.schoolweb.ne.jp/0720007

夏の頑張り実らせる

「危険な暑さ」「記録的な暑さ」と言われた今年の夏。そんな年でも必ずやってくる恒例の行事。その一つが駅伝競走大会です。

今年も、開成山競技場の改修工事に伴い、東山霊園内周回コースを会場に開催されました。

暑い夏休みの間、様々な対策のもと、練習に励んできた小原田中駅伝部は、女子が五位、男子が十二位という素晴らしい結果をだしました。

テレビ中継で見られるように、伴走車がすぐ後ろにいて、監督の指示を聞きながらの大学駅伝とは違い、中体連の駅伝競走は、スタートした　ら自分との戦いとなります。

二キロ～三キロのコースを、気候状況、チームの状態、自身の体調等を考え、どう走るのがベストなのか、自分自身で考えなければなりません。

事前に想定した状態は、走り出せばすぐに変わることもしばしば。さっきまで曇り空の走りやすい状況だったのが、突然、灼熱の太陽のもと、または土砂降りの中、走らねばならなくなることもあります。

そこで、周囲を頼っても、どこからも指示はとんできません。どんな時でも、冷静に考え、対処しなければ、うまく事を運べません。この経験を繰り返すことで、子ども達は大きく成長します。四六時中、一から十まで指示されないと動けないチームなのか、競技の止まっている間にポイントの確認をする程度で、子ども達が自主的に考え動けるチームなのかは、子ども達を取り巻く環境が大きく左右します。

伸び盛りの中学生、これからの彼らの人生のためにも、見守り育てる中学校部活動の精神を維持したいものです。

誰からも応援される選手・チームをめざして！

中体連新人総合大会

九月二四日(火)～二五日(水)に郡山市中体連新人総合大会が、市内各会場で開催され、小原田中からもフレッシュな新人チームが出場しました。

前週二〇日(金)におこなった選手壮行会では、これから小原田中を背負う、小原田中の顔となる新人チーム・選手に、意識して欲しいこととして、次のような話をしました。

（前略）

全校生の誰からも、そして先生方全員に、心から応援してもらえるような選手になって欲しい。そして、そういうチームをつくって欲しい。

たとえ、どんなに優れた技術をもっていても、ある程度の力があって勝つことができるチームであったとしても、普段の学校生活がだらしなかったり、友だちに対する思いやりに欠けていたり、大会でのマナーが悪かったりしたら、誰も応援したくなくなります。

逆に、今は技術的に未熟でも、チームやチームメイトの手伝いを一生懸命やったり、普段の学校生活でいつもみんなを助ける存在だったりする人は、いずれ皆から助けてもらえて、チームメイトにも恵まれ、ついには価値のある一勝を手にすることができると思います。そして、その一勝は誰からも祝福され、さらに価値のあるものとなり、次の試合の力となって、その人をどんどん強く、成長させてくれます。皆さんの知っている、世界で活躍している選手って、そんな人が多いと思いませんか。中学校の部活動って、そういう体験の中で学べるからこそ、意義があり、人として成長できるところなのです。ただ勝つということだけでなく、皆で人として成長できるチームをつくる、そんな目標をもって、これからの部活動、そして大会に臨んで欲しいと思います。会場中を味方につけるような、小原田中生を誇りに思い、心から応援します。

（後略）

そして当日、目を輝かせて大会に臨んだ小原田中生は、自分たちのできることに専念し、大きな力を発揮していました。まだまだ経験すること、覚えることの多い新人チームですが、来春の中体連を迎える頃には、誰からも応援される選手、チームになっていることと思います。これからも小原田中生の成長を見守り続けます。

生徒会役員選挙　立会演説会

九月十八日(水)に生徒会役員選挙立会演説会を行いました。来月行われる友垣祭を最後に、第一線から退く三年生に代わり、二年生、一年生が小原田中の生徒会を牽引します。

その決意表明とも言える演説が、各立候補者からありました。

全校生を前に、自分の意思を堂々と述べた立候補者の目には、未来の小原田中が見えていたことと思います。これからの活躍が楽しみです。